

はつかいち

市民児協だより

No.42

令和6年3月

編集／発行

廿日市市民生委員
児童委員協議会



1日目式典の様子。廿日市市民児協おそろいのさくら色のブルゾンを着て参加しました。
会場にはミンジーの姿も。



大会2日目の主な内容

【活動交流集会1】

高齢者が安心して暮らし続けることができる地域づくり

【活動交流集会2】

障がい者が生活しやすい地域づくり

【活動交流集会3】

子育て・子育てを応援する地域づくり

【活動交流集会4】

生活困窮世帯への支援と民生委員児童委員活動

【活動交流集会5】

住民同士で支え合う地域共生社会の実現に向けた民生委員児童委員活動

【活動交流集会6】

民生委員児童委員の活動環境整備

【活動交流集会7】

民生委員児童委員活動を支える民児協機能の強化

【シンポジウム1】

災害に備える地域ぐるみの体制づくりに向けて

【シンポジウム2】

新たなこども政策とこれからの民生委員児童委員活動

第92回全国民生委員児童委員大会が 広島で開催されました。

令和5年11月21・22日、広島グリーンアリーナをメイン会場に、第92回全国民生委員児童委員大会が開催されました。広島県での開催は28年ぶりで、全国から3,000人を超える民生委員児童委員が集まりました。廿日市市民生委員児童委員協議会からは48人が参加。13人が受付など運営に協力しました。

大会1日目は、山陽高校和太鼓部のオープニングアクトをはじめ、全民児連会長表彰、呉市出身のドキュメンタリー監督 信友直子さんによる特別講演、広島市消防音楽隊のアトラクションなど盛りだくさんでした。

2日目は、広島グリーンアリーナ・リーガロイヤルホテル広島・広島国際会議場の3会場に分れて、9つの活動交流集会・シンポジウムが行われ、それぞれのテーマに沿って実際に活動されている委員の事例発表を聞き、質疑応答などで意見交換を行いました。

全国大会に参加して 感じたこと

宮園・四季が丘地区

福岡 健一

全国民生委員児童委員大会広島大会に協力員として参加しました。三千人も参加する大会は初めての事で雰囲気も理解できないまま、当日8時にリーガロイヤルホテルに集合しました。早めに到着しましたが、既に多くの方が来られていました。本部からマニュアルとブルゾンが配付され、説明がありました。私の仕事は活動交流集會会場の受付です。参加者から参加券を受け取り、資料を渡し、会場へ案内します。トイレ案内も大事なことです。まだ行ったこともない全国各地からたくさんの方の参加がありました。感謝の気持ちで対応しました。

受付業務終了後は会場に入り受講しました。テーマは「生活困窮世帯への支援と民生委員児童委員活動」です。新型コロナ感染拡大時、緊急小口資金等の生活福祉資金の利用が増加したそうです。「助

けて」と言えない生活困窮世帯の方を発見し、行政へ繋ぐ活動をしている事例の発表がありました。食品配付会等、再出発への支援、具体的な事例で、並々ならぬ情熱と行動の成果発表でした。質疑応答も活発で、充実した一日となりました。



グリーンアリーナ入口

宮内・地御前地区

吉本 景子

20年間民生委員児童委員を務め、引退の思いが心をかすめる中で、今大会への参加でした。しかし大会では、多くの方に出会い熱気に近いエネルギーを感じることで、また新たな気持ちに奮い立たされる機会となりました。

そうした中の一つは、社会福祉協議会の会長として元厚生労働省局長の村木厚子さんが登壇されたことです。知らず知らずに私の背

筋がピンと伸びている気がいたしました。

次に講演者の信友直子さんです。

認知症のお母さんと介護するお父さんを、地域の方に支えられながら過ごされたことを伺い、まさに私たちの取り組むべきことと心を新たにしました次第です。その後新聞で拝見し、人生会議という言葉を知りました。人生の終わりに気付き始めた時、夫婦、親子または身近な人間関係を大切にし、心豊かに人生を全うすることの意味を教えていただいたように思います。

できる限り民生委員児童委員を続け、近隣の高齢者の見守りに尽力して参りたいと存じます。



ひろしまゲートパークにて

阿品・阿品台地区

大岡 峯明

2日目の活動交流集會では、高齢者・障がい者及び児童への福祉を骨子とした地域共生社会の実現に向けた民生委員児童委員活動の重要性を種々のテーマに分けて議論されました。

当地区から4名が「災害に備える地域ぐるみの体制づくりに向けて（シンポジウム）」に参加しました。シンポジストからは実際に被災したときの体験や、発災時は民生委員児童委員自身の安全確保が最優先であること、個人ではなく地域全体での対応の必要性についての説明がありました。それに対する当地区委員の感想として「近隣住民同士の繋がり（向こう三軒両隣）が重要であること」「要支援の対象者選定と防災訓練の必要性を再認識したこと」が寄せられました。

一方、本大会開催要綱の趣旨説明の冒頭に「（民生委員児童委員の）担い手不足」（昨年末の一斉改選で全国約24万人の定員に対し約1.5万人およそ6%の欠員）が掲げられ、厚生労働省の発表から

も、3年前の前回に比べても32%増と欠員増加傾向は続くとの懸念が高まっており喫緊の重要課題とされています。

「担い手不足」の解消が最重要課題とされるにあたり、民生委員児童委員の職務の軽減を目指し本来の福祉分野の職務に絞り込んだ見直しと急務との認識を新たにしました。



シンポジウムの様子

大野西地区

福本 博昭

全国の民生委員児童委員の方々とこの出会いを求め全国大会に参加させていだいた。直接的な出会いはありませんでしたが、山陽高校和太鼓部「弾」の迫力と熟練さ

れた和太鼓の技に感動し、式典のあと信友直子さんの講演ではお互いさまで生活すれば地域が明るくなると感じ、広島市消防音楽隊の演奏で心も癒されました。



山陽高校和太鼓部「弾」によるオープニングアクト

2日目は【災害に備える地域ぐるみの体制づくりに向けて】と題したシンポジウムに参加しました。「目の前に困っている人がいればその人は何を望んでいるか」を察すること。「民生委員児童委員はレスキューではありません、発災時より避難生活・仮設住宅での生活に寄り添う支援が大切」とコーディネーターの栗原英文さんがお話しされた言葉が心に響きました。長野市の長沼地区の会長は「若い人ほど避難する。高齢者は過去の

経験で堤防の決壊はないと判断し避難しない。サイレンを吹鳴させたとこころ避難してきた。」と話され心を打つものがありました。得るところが多く全国大会に参加させていだいたことに感謝いたします。

事務局

小山美羽子

例年全国大会には市民見協から1名のみ参加ということで、会長や副会長に行っていたいています。その引率は県民見協の事務局が行うので、全国大会への参加は初めてのことでした。広島グリーンアリーナいっぱい集まった人たちがすべてが民生委員児童委員の皆さんやその関係者ということがなかなか不思議に感じました。2日間を通して、様々な活動をしている皆さんにただただ感服するばかりでした。

真面目な感想は委員の皆さんの記事を読んでいただくとして、私は少し当日のこぼれ話を。会場前は混雑していると思い、集合場所の旧市民球場跡地で集合写真を撮っていたら、「よかったらシャッ

ター押しますよ」と颯爽と撮ってくださいる方が現れました。「ありがとうございます」と恐縮していると、「私も民生委員児童委員なんですよ♪」と、なんと広島市の民生委員児童委員の方でした。また、会場内には少し物販コーナーも設けられていたのですが、大会記念瓦せんべいが大人気で大行列でした。今回参加できなかった他の委員へお土産にということで、行列に並んで購入されている委員さんがたくさんいらつやって、優しいなあと他の職員へのお土産のことなど全く頭になかった私は反省しました。

最後に、参加していただいた皆さん、協力員として快く運営に協力してくださった皆さん、連絡調整をしていただいた各地区会長方、ありがとうございました。



全国大会の様子は、県民見協だよりNo.158、ひろば2月号でも紹介されています。ぜひ合わせてご覧ください。

研修報告

高齢者福祉部会

勉強会に参加して

高齢者福祉部会

部会長 長里 孝子

令和5年8月25日山崎本社みんなのあいプラザにて勉強会を行いました。議題は「緊急連絡票事業について」講師は市民見協事務局。まず、緊急連絡票事業の概要、記入方法、救急時の活用方法等の話がありました。大切なことは、個人情報を入れた容器を冷蔵庫に入れておくこと、記入用紙を年1回は見直すことでした。

次に、個人情報の扱い方、注意点の説明があり、個人情報の適切な管理をし、①うっかり情報漏洩をしない②必要な情報は持ち出さない等注意点がありました。個人情報提供するというのは、相互の信頼関係のうえに成り立っていることを忘れてはいけません。

最後に、緊急連絡票についてのグループワークを行いました。話が続くかと心配しましたが、どのテーブルも話が盛り上がりついで

した。「他地区の方と話せて良かった」「講演内容がもう一歩踏み込んだ方が良かった」「民生委員児童委員の負担になつていないか」等話をされていました。私自身、年1回の見直し等でできない方もいます。いざ！という時、役立つようにしておかないと意味がない！と、改めて反省した研修でした。



視覚障がいについて

の研修

障がい者福祉部会

部会長 石田 洋一

令和5年11月6日山崎本社みんなのあいプラザ多目的ホールにおいて、部会が活動理念とする「障がい者への理解・支援・協働」に則り、視覚障がい者の会「椿会」代表の土屋さん、会員の草刈さん、塚迫さんを講師にお招きし、視覚

障がい者の日常生活等における困難や支障等についてお話を拝聴しました。

私たち健常者が日常普通に感じていることが、視覚障がい者の方々には苦痛であつたり、全くの無理解が生じていたという事を、今更ながら自分自身驚きました。理解するという事は、大変な事と痛感しましたが、理解するという努力をより一層継続し、謙虚に自分自身が何が出来るのか、何を支援すべきか、等々深く自問自答することが出来ました。

今後機会があれば、このような研修を随時企画すべきと改めて認識しました。このことは、研修後参加者アンケートにも顕著に現れていました。今回の研修で学んだことをふまえて、部会の活動理念の推進をより一層図っていきたいと思ひます。



「今の子ども達がよくわからない！今の子ども達のことをよく知りたい！」

児童家庭福祉部会

研修会での学び

児童家庭福祉部会

部会長 萩谷 智志



マスクで目隠しをして、誘導する役とされる役を体験。



講演の様子

これは民児協の会合で、また地域の訪問先でしばしば耳にする言葉ですが、このように思われている方は、少なくないのではないのでしょうか。

このことから、①「子ども達の今」を知ること、②主任児童委員との連携を深めることをねらいに、令和5年6月に主任児童委員会の眞部啓子さんを、7月には広島大学のサポートセンター代表理事の橘 恵さんをお招きして研修会を開催しました。



眞部さんの講演

眞部さんには、乳幼児・小学生と保護者への関わり方や支援について事例を挙げて話していただき、その後、グループごとに主任児童委員を交えて協議を行いました。橘さんには、「今と昔の違い」の

観点から、時代の移り変わりの中の生活様式の変化に伴う子ども達の体験の違い・不十分さ、それによる身体・思考などの変わり様だけでなく、保護者の多様化についても事例を例に理論的に話していただきました。

2つの研修から、子ども達だけでなく大人の多様性も認めつつ、行動の見方・捉え方を改める意識を持たなくてはならないことを学びました。

これからも主任児童委員と連携を取りながら知恵を出し合い、取り組んで参りましょう。次の時代の社会を担っていくのは今の大人ではなく、今の子ども達なのでから！



橘さんの講演



全委員研修を受講して

廿日市市民生委員
児童委員協議会

会長 堀

尚美

令和6年1月30日、山崎本社みんなのあいプラザにて、令和5年度第2回全委員研修を開催いたしました。講師に県民児協だより「脱・マンネリ定例会のすすめ」でもおなじみの、泉恵さんをお招きし「背中をそつと押せる役割を担おう！」と地域住民のプライバシー・個人情報との向き合い方をテーマに、ご講義いただきました。

私たち民生委員児童委員には、住民の様々な生活課題の解決のために「つなぎ役」としての必要な情報提供が期待される一方、守秘義務が課せられており、その両立を図っていく事が求められています。この位は伝えても大丈夫だろうと、自己判断で行動してしまうことは、住民のみならず地域からの信頼を失うことにも繋がりがありません。

今回の研修を機会に、各自が問題意識を高めていただき、各地区の定例会で定期的な事例学習の

機会を持つていただくことを、各地区の会長にお願いいたします。委員の皆さんのケースを通して、民児協組織としても、どのように個人情報扱うのかについて、明確にルール化していきたいと思えます。



会場の様子



講師の泉さんと

地区活動の紹介

中央市民センターまつりに
参加して

廿日市地区
小早川雅子



令和5年11月中央市民センターまつりにミンジーパネルとともに出店参加しました。

廿日市地区民児協のモットーである「みんなで考え！、みんなで話し！、みんなで活動する！廿日市地区民児協！One Team!」で食・遊びの5つのコーナーを担当しました。開店を待ちわびていた地域の子ども達も、友達同士や家族と一緒にスーパーボールすくい・くじ引きと声をだして喜んでいたりしていました。この子ども達の無邪気な姿から元気をもらい、楽しい一日をすごせました。

2・3世代と顔なじみの地域の方も来られ、何気ない話ごとびかい、また関わりをもてる場にもなりました。

私自身も小さい時にお祭りに行った思い出があるように、参加してくれた子ども達も、この祭り

や地域の行事で体験したことを覚えていてくれるのではないかと思っています。そしてこれから地域の行事など通したくさんの出会いを大切にしていきたいと思えます。



スーパーボールすくい



ぜんざいやフランクフルト、焼き芋とミンジーパネル

串戸地区の「冬至と節分の配食」

廿日市中央地区
濱井 輝美



串戸地区では、毎年12月22日と2月3日に、70歳以上一人暮らし高齢者の方々の「健康と長寿」を

願い、配食を行っています。何十年も続いている串戸地区自治協議会福祉部の主催行事で、串戸地区の民生委員児童委員全員も協力して取り組んでいます。冬至の日には赤飯を、節分の日にはちらし寿司をメインに、お吸い物やバナナやみかん、そしてお菓子を添え、節分の日には「鬼の豆」を準備します。



当日の午後から自治協のみなさんと民生委員児童委員が市民センターに集まり、袋詰め等配食の準備を行い、夕方3時頃からは担当地区の民生委員児童委員が高齢者宅に届けます。留守をされている方やデイサービスに行かれています方には、事前にお聞きした希望の時間に届けています。

お一人お一人にお届けすると、玄関の鍵を開けて待つておられる方もおられ、笑顔で受け取られ色々話をされます。寒い時期の冬至と節分です。「体調に気をつけてください」と声かけをすること、生活の様子をつかぐとともに、安否確認ができ、私たち民生

委員児童委員も安心できます。これからも続けていきたい地域行事の一つです。

地域活動に参加して

大野東地区
広兼 るり



コロナ禍によって地域活動も制限されていましたが、コロナが5類に移行し、地域の行事も少しずつ開催されるようになりました。

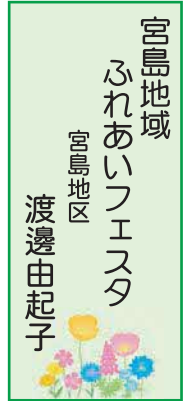
私の担当の大野東地区も、学校支援や前空地区の高齢者ふれあいサロン、一人暮らしの集いなど、色々な活動へ参加したりお手伝いしています。地域の方と顔なじみになり、少しはお役に立てているのかなと思っています。これから地域の色々な方と連携を取りながら、あなたの顔を見たら安心すると言われる人になりたいと思っています。





ヨーヨー釣り

令和5年8月4日宮島福祉センターで、第17回地域ふれあいフェスタが行われました。待ちに待った4年ぶりの通常開催に、多くの人を訪れました。会場では模擬店やステージイベント、体験、作品展が行われました。私たち民生委員児童委員はヨーヨーつりのコーナーで、たくさん子どもたちと楽しい時間を過ごしました。当日の来場者は例年より多い約260人で、笑顔あふれる雰囲気の中、皆さんとても楽しそうでした。地域の交流の場として心の輪を広げる機会となりました。



宮島地域

ふれあいフェスタ

宮島地区

渡邊由起子

おめでとうございます

【社会福祉関係功労者に対する知事表彰】

廿日市地区	森田	恵子	委員
廿日市地区	進藤	晶子	委員
大野西地区	新矢	元	委員



多世代がふれあうことのできるこのイベントが続いていくこと、そして宮島地域が益々盛り上がりつついくことを願いながら、これからも日々の活動に励んでいきたいと思っています。

【全国民生委員児童委員連合会会長表彰】

永年勤続単位民生委員児童委員協議会会長表彰

吉和地区	梶本	進	委員
------	----	---	----

民生委員・児童委員功労者表彰

廿日市地区	森田	恵子	委員
廿日市地区	進藤	晶子	委員
宮内・地御前地区	吉本	景子	委員
大野東地区	吉川	忍	委員
大野西地区	長尾	典子	委員

永年勤続民生委員・児童委員表彰

佐伯地区	岩本	輝彦	委員
------	----	----	----

【広島県社会福祉協議会会長表彰】

宮園・四季が丘地区	永井	卓雄	委員
阿品・阿品台地区	岡本	真知子	委員
佐伯地区	江島	千晴	委員
大野東地区	田中	京子	委員
大野東地区	益淵	喜代子	委員
大野西地区	佐々木	順子	委員

【広島県民生委員児童委員協議会会長表彰】

廿日市地区	河崎	美代子	委員
廿日市中央地区	藤田	朱実	委員、福原 佳子 委員、橋上久美子 委員
宮園・四季が丘地区	福岡	健一	委員
阿品・阿品台地区	大岡	峯明	委員
佐伯地区	水田	邦枝	委員、木口 守 委員
吉和地区	益本	美子	委員
大野東地区	廣田	令子	委員、山根 朋子 委員、久波 慶子 委員
大野西地区	田丸	恵子	委員、横田 光男 委員、上田 幸子 委員



【写真テイカカズラについて】

宮園・四季が丘地区 河野 進委員が撮影しました。

平安末期、小倉百人一首の撰者で有名な藤原定家が後白河天皇の娘であった内親王に思いを寄せ、内親王が亡くなった後も忘れられず、定家が葛（かずら）に生まれ変わって内親王の墓に絡みついたという伝説がいわれとされる。

日本には古くから自生していたキョウチクトウ科の植物で、常緑で庭に植えられることも多い。初夏にジャスミンに似た5枚の白い花弁でスクリューのような花をつける。また、花は甘くて強い香りがある。ただ、茎や葉の切り口から有毒の白い乳液が出て、かぶれる恐れあり。
(2022.5.28 宮島遊歩道で撮影)

＊ ＊ ＊ 新たな委員を ＊ ＊ ＊ 紹介します！



大橋 清治
佐伯地区

児童家庭福祉部会

令和5年12月1日委嘱



はつかいち

市民見協だより

廿日市市民生委員
児童委員協議会事務局
(廿日市市役所健康福祉総務課)

〒738-8512
廿日市市新宮一丁目13-1
TEL 0829 (30) 9151
FAX 0829 (20) 1611

編集後記

能登半島地震、羽田空港飛行機事故と、日常の小さな幸せが一瞬で奪われることの辛さを改めて実感した二〇二四年の年明けでした。それでも私たちはまた春を迎え、これからまた新たなステップを踏み出そうとしている方にとっては、節目の季節となりました。

高齢者訪問で、人生の先輩方の経験されたこと、家族と過ごした時間、その中でいろいろ感じたことを伺うのは、私にとって大切な時間になっています。大変な時代を生き抜いて苦労されたことも、時代を経て優しい顔で話せるようになっていきます。地震直後、ある高齢者が、「大きな地震が起きたらどうなるんだろう。」と不安な気持ちを吐露されました。誰もが何気ない日常の幸せを感じられる、そんな一日一日を過ごせました。

㊥